

発行=(株)エリート情報社

佐倉版

286-0134成田市東和田415-10

電話=0476-24-7211

FAX=0476-24-7181

毎週土曜日発行/(株)エリート情報社2006 ©

URL=http://www.elite-joho.com Eメール=sakura@elite-joho.com

weekly living paper

エリート  
情報

佐倉市を拠点に活動しているアマチュアの影絵劇団をこ存じだろうか。影絵塾9(ききゅう)吉岡英武代表は、同市や県内に伝わる民話などをテーマに、手作りの公演を行っている。

影絵は、紙や木でできた人形に後方から光を当て、その影をスクリーンに投影するもの。23人のメンバーは同市市民力レツジで同じコースを学んだ卒業生が中心。市民力レツジの文化祭で発表した演目がたまたま影絵だったことがきっかけになり、「卒業」からも続けたい」と話が盛り上がった。そうして約2年



▲セリフに合わせ、タイミングよく人形を動かすメンバー



▲同団の影絵「雨を降させた竜」より。この竜は紙コップなどを使って立体的に作られている



▶ 本公演前に行われる二人影絵

民話をテーマに影絵公演を行う劇団

## 影絵塾9 (佐倉市)

のは吉岡代表。公演の日にはすべての道具を会場に搬入し、現地で組み立てていく。暗幕を張り、高さ1・3m、横幅2・4mという大きなスクリーンを組み上げる。機材の設置が終われば舞台の始まりだ。「トザイ、トザイ」。大きな掛け声と共に幕が開く。公演時間はおおよそ20分ほど。子どもたちが飽きない程度の時間で舞台は進められていく。「夢中になりすぎて、幕から人形を操作しているメンバーの頭が出てしまうこともある」という。大きな掛け声で「トザイ」という掛け声、観客の子どもたちはもちろん、同席した大人からも拍手や喜びの声が沸き起こるという。

「道徳性や社会性などを、影絵の民話からそれとなく子どもたちに伝えていくことができると思います」。子どもたちには、作品から何かを感じ取ってほしいとメンバーは願っている。

「初心を忘れずに活動していきたいと思えます。無理せず、自分たちが楽しんで、子どもたちにも楽しんでほしいですね。みんながニコニコしながら演じていければいいですね」。メンバー募集中。問い合わせは、0403・462・5552 吉岡代表へ。同団ホームページ http://www.geociti.es.jp/kagejuku9/